

No. 341【2019年1月25日配信】

水晶遺物 (担当: 児玉)

こんにちは。文化財課の児玉です。昔は、どこの家も屋根からも「氷柱」がぶら下がっていましたが、最近はあまり見かけなくなったような気がします。晴れの日には、輝きながら透き通る氷柱が「水晶」に見えてしまうのは、私だけでしょうか。

「水晶」といえば、六角柱状の結晶としてできた透明な鉱物ですが、青森市の稲山遺跡では、255 点もの水晶が出土し、北海道や東北地方の遺跡の中でも、屈指の出土量を誇ります。

稲山遺跡の水晶は、ほとんどが縄文時代後期前葉（約 4,000 年前）に伴うのもので、母岩の外表面もしくは内部で小結晶が密集する群晶や、結晶の単体が出土しています。なかでも 1cm 未満の小結晶が多く、これらは群晶から欠落したものと考えられます。

青森県内の水晶の産地としては、本市の東岳周辺のほか、白神山地や階上岳周辺にある花崗岩類の分布域が知られています。東岳周辺では、滝沢にある月光滝の周辺で白色・透明の水晶が採取され、浅虫海岸の善知鳥崎（国道 4 号トンネル付近）の岩場でも白色水晶の群晶を観察できます。市内諏訪沢に立地する稲山遺跡も東岳周辺に位置していますが、この遺跡の水晶は現地の地層に自然的に包含されているものと、遺跡から約 7km 離れた東岳・月光滝付近から搬入された 2 種類があると推察されています。

青森県内の水晶遺物は、産地の一つである階上岳周辺の遺跡から出土するものが多く、階上町たきはた滝端遺跡では透明水晶の石せき鑕が 3 点出土し、同町白座遺跡では水晶の結晶単体が出土しています。また、八戸市南郷の畑内遺跡からも水晶製の石鑕やナイフが複数点出土しています。

このほか、青森市三内丸山遺跡からは透明水晶の「石鑕」が出土し、同市小牧野遺跡、長森遺跡、むつ市二枚橋遺跡などでは水晶の結晶単体が出土しています。また、西目屋村川原平（1）遺跡では紫水晶の結晶単体も見つかっています。このような結晶単体で出土する水晶は、その美しさから装身具や祭祀具として使用されたものと思われます。

また、稲山遺跡では、直径 32m の環状列石の周囲に水晶の出土が分布していることから、きよ浄めの道具として撒布された可能性も考えられています。

なお、稲山遺跡や小牧野遺跡、長森遺跡の水晶は、「縄文の学び舎・小牧野館」でご覧いただけます。



遺跡出土の水晶

(①小牧野遺跡、②長森遺跡、③④稲山遺跡／縄文後～晩期)